「南高スタイル」

「自由」「規律」「友情」

令和5年 7月 7日
弘前南高校
1年次通信 No.4

熱闘！

第61回校内体育大会

7月3日（月）待ちに待った校内体育大会が行われました。今年で61回目を迎える伝統の体育大会。天候不順により当初の予定より3日遅れたこともあり、多くの生徒は待ちきれなかったことでしょう。また各 HR 担任も、クラスの威信がかかっているこの一戦に、まだかまだかとしびれを切らしていたところです。

”血湧き肉躍る”伝統の体育大会。1年次最初の種目はサッカーからスタート。ナンコウスーパーアリーナは多くのサポーターが詰めかけ、「最終予選突破」のスローガンのもと、各HR独自の応援合戦を繰り広げるなど、サポーターの熱い応援が試合を盛り上げました。また、クラスによっては有名クラブから経験者を急遽招集したり、国内組はプリンセスリーグから招集をかけるなど、各クラスの特徴を活かした激しい戦いが予想されました。特に男子決勝（11HRvs12HR）では「ミトマの1ミリ」が再び出たとか出ないとか、一時騒然とする場面もありましたが、同点のまま延長戦に突入。「延長サドンデス長縄跳び大会？」でも決着がつかず、最後は双方激しいにらみ合いの中、気迫の「じゃんけん大会？」で勝敗を決し12HRが優勝。とはいえ熱戦を繰り広げた両者、最後はお互いをたたえ合い、和やかな雰囲気で幕を閉じたようです。

バドミントン会場では、応援合戦は控えめながらも、各クラスバドミントン界のスター選手をスタメンに選出。一打入魂の気迫がぶつかり合う壮絶な打ち合いを繰り広げ、疾風迅雷のスマッシュが静かな体育館に鳴り響くなど熱戦を演出。結果は男子ペア・混合ペアの2種目で11HRが優勝、女子ペアは14HRが優勝しました。

バレーボールは本校ヨヨギ第一体育館を主会場に、「ネーションズリーグミナミ 2023」が行われました。ファイナルラウンドは予選を勝ち抜いたトップ5クラスが進出し、普段の体育とは全く違う緊張感あふれる試合になりました。男子は相手チームを惑わす前衛の動きが効果的だった15HRが優勝。女子は「必殺！！アタッカーラインからサーブ」が的確に決まった13HRが優勝。（オカベッチ監督・・「選手は自分を信じて最後まで戦ってくれた」と前回同様涙ぐんでいた）

男子ドッジボールは前評判通り順当に勝ち進んだ11HRと13HRの決勝戦。両チームとも「捕る・投げるは任せろ！」とばかりに、シーズン中にもかかわらずセパ両リーグの野球部員達が結集。試合は序盤から一進一退が続いたが、多くの侍ジャパンメンバーを有する13HRが、最後は9回サヨナラで優勝しました。

女子ドッジボールはこの日最後の種目とあって、多くのドッジファンが殺到し、ヤンヤ・ヤンヤの大歓声のなか行われました。決勝はここまで逆転ミラクルで勝ち上がった11HRと12HR。この勝敗が総合優勝の結果に大きく影響するとあって、試合前から11HRハナーエ監督、12HRアヤコー監督、両監督の舌戦が火花を散らし一触即発状態。たまらずキョウイッチ審判部長が仲裁に入るなど試合前から激戦を予感させました。試合は両者譲らない展開となりましたが、試合終了間際、両監督の「走れ！」「投げろ！」「逃げろ！」などの発言がヤジにあたるのではと疑義があり中断。キョウイッチ審判部長がVRをチェックしたところ、両者ギリギリなんとかセーフの判定。しかし、この中断が試合の流れを大きく変えることとなり、結果的には12HRが圧勝しすべての競技が終了いたしました。

【 総 評 】

61回生の皆さん、体育大会大変お疲れ様でした。クラス全員が一致団結し、プレーも応援もみんなで一生懸命楽しんでいましたね。元気いっぱいの皆さんの姿は微笑ましい限りでした。また、ある生徒がうまくできない仲間を励ます場面があり、それを見たときは、目頭が熱くなってしまいました。今度は南高祭に向けて、“けじめ”“ルール”を守りながら全力で取り組んでください。

1 年次通信は弘前南高校 HP でも閲覧できます。
http://www.hirosakiminami-h.asn.ed.jp/